

道都でまちの魅力を発信

# 農業・農村ふれあいフェスタin赤レンガ2024

**北海道庁赤れんが庁舎前に**  
**おいて開催された「農業・農村ふれあいフェスタin赤レンガ2024」**会場において10月5、6日、財田米ブランド推進委員会2名も参加して普及啓発活動および新米販売会を実施しました。

参加3年目となる今回は、新たに農政部局とふるさと納税担当との連携事業として企画し、財田米および、ふるさと納税の知名度向上のため、SNSのフォローおよびアンケートの回答者に2合分の財田米をプレゼントしたほか、希望者にはその場でふるさと納税の受付も行いました。

さらに翌日6日には、札幌駅前地下歩行空間「憩いの空間」においても同様の取り組みを行い、用意していた新米が全て売り切れるなど大盛況でした。



人気を集めた洞爺湖町のブース



地下歩行空間で行われた2日目の展示も盛況

勝利を目指して大熱戦

## 洞爺湖町高齢者運動会で住民交流



**洞** 爺湖町高齢者運動会が10月21日、あぶた体育館で行われました。

65歳以上を対象に開かれ、参加者が4チームに分かれて5種目を行いました。

最初の種目は「バケツリレー」。バケツに入ったボールを落とさないようにしながら隣の人に渡し、各チームが息の合った連携を見せました。

ほうきでボールを転がしながら走る「おそうじリレー」では、各選手がうまくボールをコントロールして接戦を繰り広げ、会場が熱気に包まれました。

「〇×クイズ」、「紅白玉入れ」でさらに盛り上がった後は「洞爺湖音頭」で閉会。運動に汗を流し、交流を深めた参加者の間には笑顔が広がっていました。



接戦が繰り広げられたおそうじリレー



息を合わせてバケツリレーを行う参加者

9/20

## 農地を守る奉仕活動に謝意 高橋建設に感謝状

**大** 原地区のかんがい排水施設、大原調整池で環境整備の奉仕活動を行った高橋建設に、町が感謝状を贈りました。同社は8月、大原調整池周辺の法面部分など約4500平方メートルの草刈り作業を無償で実施しました。同社の奉仕活動は17年連続17度目になります。下道町長から感謝状を受け取った高橋哲也社長は「かんがい用水路を使っている生産者が丹精込めた農産物を多くの人に楽しんでもらいたい」と話していました。



感謝状を受け取った高橋社長（左）

9/13

## 洞爺湖観光の魅力を伝える 虻田高が観光模擬ガイド

**虻** 田高校（千葉佳貴校長）の遊覧船乗船ガイド研修が行われました。3年生17人が参加し、洞爺湖温泉小学校の児童をガイドしました。遊覧船に乗船した虻田高生は、写真やイラストを交えた資料で洞爺湖の成り立ちや、町の主要な農産物、人気の観光スポットなどについてわかりやすく説明しました。ガイド研修は地域ビジネスの授業の一環として、例年行われています。



洞爺湖観光をガイドする虻高生

9/25

## 町内美化活動に感謝 北紘建設に感謝状

**土** 砂撤去などの奉仕活動を行った北紘建設（本社・伊達市元町）に、町が感謝状を贈りました。同社は7月、地域貢献の一環として花和地区の町道約100メートルの側溝に溜まった土砂を撤去しました。また、大磯漁港近くの町有地で草刈りも行いました。出席者を代表し、下道町長から感謝状を受け取った河島修専務取締役は「町のためにこれからも奉仕活動が続けていきます」と話していました。



感謝状を受け取った河島専務取締役（左から3人目）

9/24~25

## 交通事故根絶のために 黄色い旗の波運動

**沿** 道で黄色い旗を振って安全運転を促す「町民総ぐるみ黄色い旗の波運動」が行われました。秋の全国交通安全運動に合わせた運動。今回は町内3カ所で行われました。初日の24日は虻田地区の国道37号、洞爺地区の道道交差点に黄色い旗を手にした参加者が集まり、通り過ぎるドライバーにスピードダウンを呼び掛けました。25日には洞爺湖温泉地区でも行われ、交通事故根絶を訴えました。



黄色い旗を振って安全運転を呼び掛ける参加者